

## 第1・2学年 生活科学習指導案

平成29年10月20日（金）第2校時  
東祖谷小学校 第1・2学年7名  
指導者 T1：長井 円香  
T2：市村 夏実  
T3：新藤 克己

### 1 単元名 つくろう あそぼう くふうしよう

### 2 単元設定について

#### (1) 児童・地域の実態

本校区は剣山の麓にあり、たくさんの山や木々に囲まれ、祖谷川も流れる自然豊かな地域である。校庭には四季折々の草花が咲き、1年を通して触れ合うことのできる身近な自然がある。また、周りの山々を見渡すと、春の新緑や秋の紅葉など四季の変化がもたらす情景を楽しむことができる。そんな環境の中で育っている本学級の児童は、明るく素直で、何事にもまじめに取り組むことができるよさがある。また、活動的で戸外での遊びを好む児童が多く、生活科の時間には季節を実感できる草花や昆虫を探したり、木の実を使ってどんぐりごまやけん玉などいろいろな物を作って遊んだり、意欲的に活動することができる。昨年度の生活科では、こまやお手玉などの伝承玩具を使った「昔の遊び」を祖父母に教えてもらいながら楽しんだ。また、『たのしもう あき』の単元では、身近にある木の葉や木の実を使って、どんぐりめいろ・まつぼっくりけん玉・ひつつきむしまとあてなどの遊びに使う物を作った。そして異学年児童やこども園児を招待して、遊び方を教えたり一緒に楽しく遊んだりして仲よく交流した。これらの活動を通して、遊びを創り出す面白さや、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じながら、一生懸命に取り組む姿が見られた。しかし、自信をもって自分の考えを伝えたり、協力してよりよいものを作り上げていたりする活動については、まだ経験が少ない。

そこで、身近にある自然や物を利用し、遊びそのものにアイデアを凝らしたり、遊びに使うものを工夫して作ったりする素晴らしさを実感できるよう『つくろう あそぼう くふうしよう』という単元を設定した。こども園児を招待し、園児や友達とかかわり合いながら、一人一人が自分のよさを生かして主体的に「遊び」を楽しめるように学習活動の工夫を図っていかうと考えた。動くおもちゃを工夫して作る中で、こども園児と繰り返しかかわることにより、工夫して遊ぶことの楽しさや人と心を通わせながら学ぶ楽しさを児童に気付かせたい。そして、自信をもって自分らしさを発揮しながら生活しようとする態度を育てたい。

#### (2) 単元について

本単元は、学習指導要領の内容（6）「自然や物を使った遊び」を中心に、（8）「生活や出来事の交流」とも関連させながら設定している。おもちゃ作りに必要な材料を自分で集めたり、動きを生み出している動力を意識したりするなど、児童が計画的・主体的に取り組むことをねらっている。また、作ったおもちゃで繰り返し遊ぶ活動を通して、よく動くようにおもちゃを改良したり、友達と協力して楽しく遊ぶためのルールを決めたりするなど、豊かな創造力や実行力を育てていきたい。

児童はこれまでに、『だいすき なつ』の単元で、身近な自然である土や砂を使った遊びを楽しむ活動を行った。その活動では、手足を泥んこにし、土や砂の感触を味わいながら遊びに没頭する姿を見ることができた。また『たのしもう あき』の単元では、集めた木の葉や木の実を使って、どんぐりごま・まとあて・どんぐりめいろ・わなげなどを作って遊ぶ体験をしている。『たのしさ見つけたよ ふゆ』の単元でも、一人一人が風を利用して遊ぶ凧を作り、みんなで遊びに

さらに没頭することができた。

そこで、風（空気）だけでなく、ゴムや磁石によって動くおもちゃなどもあることを紹介し、身近な材料を使って楽しく遊べるおもちゃ作りをしていく。そして、一人一人が自分で材料を考えながら作ったおもちゃや友達の作ったおもちゃで遊ぶことを通して、友達との意見交流を活発にさせていきたい。

さらに、自分や友達の工夫やがんばりに気付くことができるような単元構成にするために、よりよいおもちゃになるように友達のおもちゃと比べたり、繰り返し試して改良を重ねたり、遊び方を工夫したりする活動場面を意図的に設けることで、児童の実感を伴った気付きを生み出す支援を心がけていく。遊びを楽しむ活動を通して、おもちゃの動くしくみに気付いたり、よく動くように工夫を重ねたりすることは、第3学年からの理科学習につながる科学的な見方・考え方の素地を培うことができるものと考えられる。

また、こども園児に楽しんでもらいたいという相手意識や目的意識をもって主体的に園児とかわかり、相手を思いやる気持ちを育てていくとともに、工夫したことや気付いたことなどを伝え合う場を充実させ、みんなで共有することで、気付きの質を高める学習活動になるようにしていきたい。

### (3) 研究副主題のキーワード『豊かなかわり合い』との関連

本単元では、1・2年生とこども園児とのかかわりを大切にしていきたい。隣接されているこども園にはすぐに行き来することができ、普段から園児と交流しやすい恵まれた環境にある。毎年5月に実施している「お茶会」では園児を招待し、1・2年生手作りのよもぎだんごを振舞ったり、クイズ大会やじゃんけん列車をしながら遊んだりしている。また、7月には「ふれあい集会」を開き、園児・児童の祖父母に教えてもらいながら「昔の遊び」を一緒に楽しんだり、歌やダンスなどの出し物を出し合ったりして交流を深めている。

本時でも、1・2年生だけでなく意図的に園児との交流を計画した。異年齢の児童と園児が交流することを通して、1・2年生だけでは見い出せないことに気付くことができる。また、園児はおもちゃ作りを通して「面白い」「不思議」など感受性をゆさぶられる体験をすることができ、お互いに学びを深め合えるのではないかと考えた。さらに、意見を交換しながら工夫して作ったり、作ったおもちゃで一緒に遊んだりする中で、互いのよさに気付いていくことが、豊かなかわり合いの中で主体的に学び合うことにつながっていくと考える。

## 3 単元の目標

身近にある自然や物を使って動くおもちゃを工夫して作り、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

## 4 単元の評価規準

### ア 【生活への関心・意欲・態度】

身近にある自然や物を使った遊びに関心を持ち、思いや願いをもって遊びや遊びに使う物を作ったり、意見を伝え合ったりして、みんなで遊びを楽しもうとしている。

### イ 【活動や体験についての思考・表現】

おもちゃの動く仕組みに着目して作って動かしたり、みんなで楽しく遊ぶためのルールを話し合ったりして、工夫した点や遊び方を自分なりの方法で表すことができる。

### ウ 【身近な環境や自分についての気付き】

身近にある自然や物を使って動く仕組みのあるおもちゃを作ったり動かしたりする活動を通して、楽しく遊べることや自然の不思議さ、友達とかわかって遊ぶ楽しさ、友達のよさや自分との違いに気付いている。

5 単元構想

(ア 関心・意欲・態度 イ 思考・表現 ウ 気付き)

学習活動		児童の意識の流れ ☐ こども園児の意識の流れ	活動の主な支援	評価規準 (評価方法)
第1次	どんなあそびができるかな。 [1時間]	<p>動くおもちゃで、みんなと遊ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動くおもちゃって面白いな。</li> <li>・この入れ物は丸いから、転がして遊ぶことができるね。</li> <li>・自分でも作って、遊びをしてみたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集めた物の形や材質の違いについて一緒に遊びながら語りかけ、おもちゃの面白さや自然の不思議さを児童に気付かせる。</li> </ul>	<p>ア集めた物を使って、進んで遊ぼうとしている。 (行動・発言)</p>
第2次	どうすればもっと楽しくあそべるかな。 [2時間]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールの代わりに何がいいかな。</li> <li>・輪ゴムを使って何かできるかな。</li> <li>・ガムテープの芯が使いそうだよ。</li> <li>・キャップをタイヤにすると車が作れる。</li> <li>・ゴムで遠くまで飛ばす競争をしたよ。</li> <li>・中をどう作ったら動くのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集めた物の組み合わせ方を一緒に考えたり、動きに関係する部分の作り方で動きが決まることを考えさせたりする。</li> </ul>	<p>イ物の特徴(形や材質)を生かした遊びを考えたり、より楽しくなるように遊びを工夫したりしている。 (作品・会話)</p>
第3次	自分でおもちゃをつくってみよう。 [5時間] (本時4/5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作りたいおもちゃの設計図を描いたよ。</li> <li>・車をもっと速く走るようにしたいな。</li> <li>・うまく動かない。もっと動くようにしたいな。友達はどうやっているかな。</li> <li>・ゴムの本数を増やしたら高く飛んだよ。</li> <li>・思い通りのおもちゃができたぞ。もっと遊びたいな。</li> <li>・今度は、こども園の子と一緒に作ってみよう。</li> </ul> <p>☐</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁石でくっついたよ。磁石の力ってすごいんだね。</li> <li>・お兄ちゃんたちすごいね。もっといろんなおもちゃを一緒に作りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工夫するポイントが確かめられるよう、お手本になるおもちゃを置いておく。</li> <li>○工夫をしている友達のよさに気付くよう、声かけをする。</li> <li>○作り方の例を示したり、動力になる部分の作り方の工夫の例を紹介して説明したりする。</li> </ul>	<p>ウ物の特徴を生かして工夫すると、いろいろな動きのおもちゃが作れることに気付いている。 (カード) (発言)</p>
第4次	みんなであそぼう。 [3時間]	<p>おもちゃ大会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなであそぶ計画を立てよう。</li> <li>・こども園の子を招待しよう。</li> <li>・遊びのルールや約束を決めよう。</li> <li>・工夫したことも知らせたいね。</li> <li>・遊びを工夫したら、おもちゃで遊ぶことがもっと楽しくなったよ。</li> <li>・みんなであそぶと、楽しいな。</li> </ul> <p>☐</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなにたくさん動くおもちゃを作れるなんて、すごいね。</li> <li>・すごく楽しいね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルールや約束がないとみんなで遊べないことを例示したり、守らないと困ることが起こる場合もあることを確認したりする。</li> <li>○うまくいったことやがんばったことについて話し合うことで、動くおもちゃの面白さや自分や友達のよさに気付かせる。</li> </ul>	<p>アみんなであそぶことに関心をもち、協力して遊びを楽しもうとしている。 (行動・会話)</p>

## 6 本時の学習

### (1) 目標

みんなで仕組みを考えながら、動くおもちゃを楽しく作ることができる。

### (2) 展開

時間(分)	学習活動	児童の意識の流れ	指導・支援	評価規準 (評価方法)	
5	1 本時のめあてや活動内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園の子と一緒に作るんだな。がんばるぞ。</li> <li>・作るの楽しみだな。</li> <li>・分かりやすく教えるぞ。</li> </ul>	○本時のめあてや活動内容を知ること、活動に対する意欲をもたせる。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     つくりかたをくふうしながら、みんなでうごくおもちゃをたのしくつくろう。                 </div>					
20	2 グループに分かれておもちゃ作りをする。 (グループ学習) □1・2年生がこども園児に教えながら □友達と一緒に □交換し合っ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これは丸いから転がるね。</li> <li>・ここが大事だから作り方をよく見ておいてね。</li> <li>・もっと高く飛ばせないかな。</li> <li>・友達はどうやっているかな。</li> <li>・同じおもちゃなのにどうして飛ぶ距離が違うのかな。</li> <li>・ゴムの本数を増やしたら、高く飛ぶようになったよ。</li> </ul>	○工夫するポイントが確かめられるよう、お手本になるおもちゃを置いておく。  ○工夫をしている友達のよさに気付くよう声かけをする。		アこども園児とかかわりながら、楽しく作ろうとしている。 (つぶやき) (会話) (発言) (行動)
10	3 作ったおもちゃで試し遊びをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よし、動かしてみよう。</li> <li>・ちゃんと動くかな。</li> <li>・うまく動いた。うれしいな。</li> <li>・羽の向きを変えたら車が速く走るようになったよ。</li> </ul>	○おもちゃがうまく動くように工夫したことを賞賛する。		
10	4 活動を振り返り、次時の活動内容について知る。 (全体学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お兄ちゃんたちの説明が上手で分かりやすかったよ。</li> <li>・工夫したら、よく動くようになってうれしかったよ。</li> <li>・友達に教えてもらったら、うまくいったよ。</li> <li>・みんなで作ると楽しいな。</li> <li>・おもちゃ大会に向けて、まだまだがんばるぞ。</li> <li>・もっとたくさん作りたいな。</li> </ul>	○うまくいったことやがんばったことについて話し合うことで、動くおもちゃの面白さや自分や友達のよさに気付かせる。  ○自信をもって次の活動に取り組めるよう、意欲を高めさせる。	ウ自分たちの工夫のよさががんばりに気付いている。 (つぶやき) (発表)	

ア	「十分満足できる」と判断される状況	積極的にこども園児とかかわり、うまく動くように一緒に工夫しながら、楽しく作ろうとしている。
	「おおむね満足できる」状況を実現するための手だて	こども園児に伝えるべき内容を一緒に確認し、思い描いた動きになる作り方の例を示したり、うまく動かしている友達の活動の様子を紹介したりする。
ウ	「十分満足できる」と判断される状況	自分たちの工夫のよさががんばりに気付くとともに、うまく動くように工夫すると楽しく遊べることに気付いている。
	「おおむね満足できる」状況を実現するための手だて	作ったおもちゃを見せて工夫したところを思い出させたり、協力すると楽しくなることを話したりして振り返らせる。